

災救通信

令和3年
12月1日
第24号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

宣誓
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

本部白川山林整備 ひのきしん報告

親里大路のイチヨウ並木が見頃を迎えた11月26日
神苑には晩秋の日差しが差し込み、パイプ椅子に座ってみると、思いの外暖かく本部月次祭を参拝させていただくことが出来た。一方で、昇殿参拝の方が詰所に戻ってくると、殿内は冷たい風も吹き込み寒さ堪える中での参拝であったとのこと。やはり日陰や風が吹くと肌寒く、霜月を実感する。

作業一日目

午後からは災救隊の恒例活動である白川山林整備ひのきしんが2年ぶりで実施となり、当番教区の参加者が白川地区管理棟前に集結した。午後2時、受付を済ますと「集合願いま〜す」と声が掛かる。さらに「整頓、休め！気をつけ！右へならえ！」と号令が掛かって結隊式が始まった。コロナ禍でこうした場が無くなっていったが、久々の感覚に緊張と喜びを感じた。今回のひのきしん内容は、白川中央道、白川外環道の歩道や路肩の草刈りが主な作業となった。これは白川地区が12月12日に行われる『奈良マラソン』のコースの一部となっているからである。



白川中央道の歩道の草刈りを丁寧に行う。



見頃のイチヨウ並木。



北海道教区隊からは奥村教区隊長、函館支部隊水島隊員、吉田日高支部隊長の3名が参加し、当番教区隊として大分、福岡、鹿児島、沖縄、佐賀、熊本、宮崎、兵庫、福島、宮城、秋田、山形、岩手、青森から65名と本部スタッフ8名の計73名が参加した。

作業は全体を3つの現場に分け、第一現場を北海道、福島、山形、青森教区隊17名が受け持つこととなった。全員刈払機を担ぎ、歩道や路肩のあちこちに伸びた草を丁寧に刈り進んで行く。だがしかし、路肩脇にはずっしり重たくなった落ち葉があちこちで10センチほど堆積し、草刈りを妨害する。やむを得ず刈払機を置き、熊手やテミ*を持って落ち葉や刈った草を集め道路脇の谷へと落として行った。

2時間の作業を終え、管理棟前に集合すると、刈払機の故障でエンジンがかか

らなかった機械を、函館支部隊の水島隊員が「ちよつと見ますよ、ドライバー一本あれば、直ぐに分かります」と瞬く間にエンジンのカバーを外し原因を見つけた。「給油パイプの劣化から燃料が漏れてるんですね」と。さすが元整備士。何とも心強いことである。解散後、ホームセンターへ直行し部品を購入してこの日の作業を終えた。



瞬く間に原因を突き止める。

作業二日目

午前8時半、各詰所を出発し揃って白川管理棟へ向かう。到着するや早速、購入した部品を使って修理を行う。わずか7〜8分、「ブロオ〜ン」とエンジンが復活した。本部スタッフも驚きの様子。

午前9時、集合しおちばを遥拝。書説明を受け現場へ向かった。この日は刈った草や堆積した落ち葉の除去作業が主な作業である。何ともこの事を予想していたかのように、一期講師をつとめている佐藤教区隊長補から、偶々購入したばかりのエンジンブローを借りてきていた。現場で早速始動をすると、ドンドン落ち葉

や草が寄せられて、良いテンポで綺麗に片付く。白川中央道から移動し、白川グラウンド横の外環道の歩道の落ち葉や草を同じように始末して、この度の作業を終了した。



ブローを用いて効率良く。

支部隊長会議報告

11月29日10時から、二回目となる全道支部隊長リモート会議を開催した。会議に向け前日と会議前にリモートテストを行って、相互の音声や画像チョックなどを行い会議に備えた。

菅野副隊長が司会を務め、参加者がその場で遥拝した後、議事が進められた。

冒頭、災救援50周年記念大会でのお言葉を受け、今後の教区、支部での活動の相談をしたいと、奥村教区隊長からあいさつがあった。

活動報告

続いて司会より、この一年間の活動報告として、冬期間の除排雪の出動や訓練、また、防災会議や防災訓練について報告があった。(災救通信参照)

今後の活動について

また、来年の平時訓練については実施を見合わせ、再来年実施の方向で検討している。平時訓練を再来年支部で実施希望のところは教区隊へ要望してもらいたいとの発表があった。また、これまで全国で実施していた本部主催のブロック訓練は形態を変えて、各ブロック主催となった。



ZOOMアプリを活用してのオンライン会議の様子。

災害救援基金について

続いて、結成50周年を記念して常設の基金が設けられたが、この基金について教区隊としての思が伝えら

れた。内容として、「近年の災害頻発を受け、自己完結で活動を展開する災救援活動の充実と被災教区復興支援を目的と聞く。何とかその思に応えたい」

「そもそも災救援の活動は災害時の救援活動と、災害が起こらないような常日頃のひのきしん活動である。地域ひのきしん活動の牽引車、リーダーとして活動しなければならぬが、コロナ禍で十分な事が出来ない。」ひのきしんやたすけあいの具体的な活動の一つとして、各支部で基金に取り組んではどうか」と、提案があった。

一例として、「一教会の月々の基金を200円とした場合、支部内15カ所と見なすと×27支部が1年で、97万2千円を北海道として基金に協力出来る。」毎月のたすけあいの思いが大きなものとなる。

この後、各支部隊長からこの提案について意見を出してもらった。「抽象的な説明だけでなく、災害時に活用するのであれば、規模に応じた経費を示して、具体的な金額を提示すると理解いただけるのでは」「既に災害対策の積み立てを行っている理解いただけるのでは」などの意見が交わされた。あくまでも提案であるが、たすけあいの実践として北海道の合力を届けたい。必要であれば支部巡回も行う予定である。最後に事務連絡として各支部隊の名簿など確認、訂正などをし変更があれば教区隊庶務まで提出をお願いし、遙拝をさせていただき閉会した。

室蘭支部 防災訓練報告

10月30日、室蘭支部では輪西地区防災訓練に22名が参加し、訓練想定のとおり室蘭市全域が未明の大雨により9時室蘭市気象管区台から土砂災害危険情報が発表され、室蘭市災害対策本部は、直ちに輪西地区に避難指示レベル4を発令した。それを受け、室蘭支部災害対策委員会は、事前より支部管内に於いて出動準備命令をかけて、発災後、輪西分教会を対策本部に設置し、合わせて避難所運営の支援を要請した。



段ボールベッドや、間仕切りスペースを作成。

8時45分～55分 訓練及び避難所開設等の説明
9時、訓練開始の連絡網が事務局佐々木に入電、直ちに避難所開設に取り掛かる。

北海道教区災救援隊庶務へ連絡（事務局豊野）
9時08分 避難所開設完了、室蘭市防災対策課へ報告。受

付係他避難者来所時の受付シユミレーションを実施。
10時 日本製鉄体育館へ移動（車で5分程度 車乗り合いで移動）男子12名の参加

10時20分～11時35分 発電機取り扱い、ダンボールベッド組み立て、防災講習に参加。
11時45分教会へ戻り、参加者全員で記念写真撮影。

12時00分 昼食（炊き出しメニュー）おにぎり2個 大根と豚肉の炒め物、豚汁、漬物、野菜ジュース、お茶500ml
12時30分反省会ならびに総括

13時 発電機取り扱い訓練をし取り扱いの再確認をした。岡崎支部災害対策委員長よりあいさつ。以上

まとめ
・訓練参加の事前の段階から連絡伝達網を使い、連絡を行ったが、スムーズに連絡が回

り機能していると判断できた。しかし、あくまでも災害に予見できるものが対象であったため、緊急時の対応がどうなるかが求められる。また、対策委員会及び災救援隊の名簿数28名から今回の参加者は12名であった。実際の災害時においても同程度の参加数と予想されるためにこの数を判断基準にしたい。

・有珠山噴火時の災害対策委員会の動きとすれば、受付等は任されていないが、どの災害においても対応していけるよう今回は、受付等を実施。また、ダンボールベッド組み立てや資機材運搬はマンパワーが必要であると感じ、訓練できたことは大きかった。

・拠点教会に対策本部室を設けるように、委員長、副委員長、事務局長、会計、庶務が詰める事としなければならぬ。今回の訓練では、その確認出来良かったと思う。

・訓練時協力し合い、バタバタとしながらも確認でき災害時の行動の意識につながる良い訓練が出来た。支部災害対策委員会 事務局佐々木 誠